

# AOB & COE Seminar

**Prof. Ray J. Weldon II** ( University of Oregon)

**Title: Interseismic uplift from historical tide gauges and leveling lines on the Cascadia subduction zone**

Research Center for Prediction of Earthquakes and Volcanic Eruptions

July 21, 2005 (Thu) 10:00-12:00

Conference Room I (annex of AOB )

講演内容：

先生のご研究の対象は主に活断層ですが、一方でカスカディア沈み込み帯におけるプレート境界型巨大地震による災害の予測についても研究されてます。カスカディアでは、スロースリップイベントが規則的に繰り返し発生していて、深部低周波微動がそれに同期している等、西南日本と良く似た興味深い現象が観測されています。また、1700年にここでM9の巨大地震が発生したことが、日本の古文書における津波の記述から確かめられるなど、最近、日本の地震学者の多くが注目している沈み込み帯となっています。

このカスカディアにおける巨大地震像を明確にするためには、地質学的な研究と測地学的研究をリンクする必要があります。先生のグループは、この地域における1930年代からの潮位計のデータと水準測量のデータを極めて丁寧に解析して、巨大地震が発生していない時期、つまり歪を蓄積している時期における海岸線付近の隆起・沈降レートを明確に示しました。この結果は、最近のGPSの解析結果とあわせてカスカディアにおけるプレート境界型巨大地震の発生モデルに対する大きな拘束条件となっています。今回のセミナーでは、このようなカスカディアにおける隆起・沈降に関するご研究の結果について講演していただきます。

主催：東北大学大学院理学研究科 地震・噴火予知研究観測センター Tel: 022-225-1950 (代表)

Center HP : [http://www.aob.geophys.tohoku.ac.jp/education/seminar/aob\\_seminar/](http://www.aob.geophys.tohoku.ac.jp/education/seminar/aob_seminar/)

お問合せ先 : [matuzawa@aob.geophys.tohoku.ac.jp](mailto:matuzawa@aob.geophys.tohoku.ac.jp)

